第４８回全国高等学校柔道選手権大会長野県大会実施要項

大会趣旨　本大会は高校柔道の発展ならびに競技力の向上を目指すとともに、柔道を通じ、我が国の将来を担う高校生の相互親睦を図りながら、明るく正しく・たくましい青少年の健全育成を目的とする。

主　　催　長野県柔道連盟

共　　催　長野県高等学校体育連盟

主　　管　長野県高等学校体育連盟柔道専門部

期　　日　令和８年１月１０日（土）　開会式　午後１２時００分　：男女個人試合
　　１月１１日（日）　開始式　午前　９時３０分　：男女団体試合

会　　場　長野県立武道館

日　　程

初日　１月１０日(土)　個人試合		２日目　１月１１日(日)　団体試合	
１．計量	９：３０～１０：３０	１．女子団体計量	８：００～８：３０
２．審判監督会議	１１：００～１１：３０	２．審判監督会議	９：００～９：３０
３．開会式	１２：００～	３．開始式	９：３０～
４．試合開始予定	１２：３０～	４．試合開始予定	１０：００～
５．試合終了予定	１７：００	５．閉会式	１５：００～

競技規則　（１）国際柔道連盟試合審判規定ならびに(公財)全国高体連柔道専門部申し合わせ事項による。

① 団体試合

ア　試合時間は３分間とする。

イ「優勢勝ち」の判定基準は、「有効」または「僅差」(「指導」差２)以上とする。

ウ　チームの内容が同等の場合は代表戦を行う。代表戦の方法は「競技方法」で定める。

②個人試合

ア　試合時間は３分間とする。

イ「優勢勝ち」の判定基準は、「有効」または「僅差」(「指導」差２)以上とする。

ウ　試合終了時に得点差がない場合、もしくは、「指導」差が１以下の場合は、ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行う。延長戦は、「有効」以上の得点があった時点、または、「指導」の数に差が出た時点で試合終了となる。

＊「指導」の累積により両者が同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行い、勝敗を決する。延長戦で「指導」の累積により両者が同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、再度ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行い、必ず勝敗を決する。

競技方法　１.男子団体試合

① トーナメント戦で行う。

② 各チーム間の試合は、点取り試合とする。

③ 試合は各チーム５名で行い、試合ごとのオーダーの変更を認める。

④ トーナメント戦の勝敗の決定は次による。

ア 勝ち数の多いチームを勝ちとする。

イ アで同等の場合は、「一本」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

ウ イで同等の場合は、「技あり」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

エ ウで同等の場合は、「有効」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

オ エで同等の場合は、代表戦を行う。

代表戦は代表選手を任意に選出して行う。代表戦の「優勢勝ち」の判定基準は「有効」または「僅差」（「指導」差２）以上とし、試合終了時に得点差がない場合、もしくは、「指導」差が１以下の場合は、ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行う。延長戦は、「有効」以上の得点があった時点、または、「指導」の数に差が出た時点で試合終了となる。

＊代表戦で「指導」の累積により両者が同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行い、勝敗を決する。延長戦で「指導」の累積により両者が同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、再度ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行い、勝敗を決する。

２．女子団体試合

①トーナメント戦で行う。

②各チーム間の試合は体重別点取り試合とする。

③試合は各チーム３名で行う。試合ごとのオーダー変更は行わない。

④トーナメント戦の勝敗の決定は次による。

ア　勝ち数の多いチームを勝ちとする。

イ　アで同等の場合は、「一本」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

ウ　イで同等の場合は、「技あり」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

エ　ウで同等の場合は、「有効」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。

オ　エで同等の場合は、代表戦を行う。

代表戦は「引き分け」対戦の中から抽選で選び、ゴールデンスコア方式の試合を時間無制限で行う。代表戦は、「有効」以上の得点があった時点、または、「指導」の数に差が出た時点で試合終了となる。なお、引き分け対戦がない場合は、両者反則負けなどで勝敗がつかなかった対戦を代表戦とする。また、両チームが選手２名で「引き分け」対戦がない場合は、代表選手をすべての対戦の中から抽選で選出して、ゴールデンスコア方式の試合を時間無制限で行う。

＊代表戦で「指導」の累積により両者が同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、再度ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行い、必ず勝敗を決する。

３.男子団体試合３人制

①試合方式は、参加チーム数によって決定する。

②各チーム間の試合は、点取り試合とする。

③試合は各チーム３名で行い、試合ごとのオーダー変更を認める。

④トーナメント戦の勝敗の決定については、男子団体試合と同様とする。

引率・監督　１．選手は必ず当該校の引率責任者に引率され、引率責任者は選手のすべての行動に対して責任を負う者とする。

２．引率責任者は、団体の場合、校長が認める当該校の職員とする。個人の場合は校長の認める学校の職員とする。また、校長から引率を委嘱された「部活動指導員」（学校教育法施行規則78条の2に示された者）も可とする。<u>但し、「部活動指導員」に引率を委嘱する校長は、長野県高体連会長に事前に届け出ること。</u>

３．監督は校長が認める指導者とし、それが外部指導者の場合は傷害・賠償責任保険に必ず加入することを条件とする。

４．監督の役割

①監督は、自身の選手が大会会場に入場してから退出するまでの間、選手の行動に責任を持たなければならない。

５．監督の行為・言動

①試合が止まっている間(「待て」から「始め」)のみ、選手に対し指示を与えることが出来る。

②次の行為を禁止する。

（ア）試合が続行している最中に指示を出すことや試合中に立ち上がること。

（イ）対戦相手や自身の選手を侮辱する言動。

６．罰則規定

①１回目は審判員が合議の上、口頭により「警告」を与える。

②２回目は審判員が合議をし、大会委員長または審判長に報告の上、大会委員長または審判長の責任のもとに、その試合が終わるまで監督席から退場させる。

※次の試合（対戦校）からは、監督席に座ることはできるが、その後も改善されない場合は、大会期間中をとおして、監督席への着席を認めない。

参加資格

１．高等学校在籍生徒で、平成19年4月2日以降に生まれた者（令和7年4月2日現在、18歳未満であり、第１・２学年に在籍していること）。同一学年の出場は１回限りとする。
２．転校後６ヶ月未満の者は出場することができない。ただし、一家転住等の理由により、やむをえない場合はこの限りではない。
３．チーム編成において全日制課程・定時制課程・通信制課程の生徒による混合は認めない。
４．出場する選手はあらかじめ健康診断を受け、在学する学校長の承認を得ること。
５．県高体連登録を完了し大会参加が認められている生徒であること。また、(公財)全日本柔道連盟に選手登録をしていること。
６．「脳しんとう」に関する扱いは以下のとおりとする。
①大会前１か月以内に脳しんとうを受傷した者は、脳神経外科の診断を受け、出場の許可を得ること。
②大会中、脳しんとうを受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。尚至急、専門医（脳神経外科）の精査を受けること。
③練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。
④当該選手の指導者は大会事務局および全柔連に対し書面により事故報告書を提出すること。
７．皮膚真菌症（トリコフィトン・トンズランス感染症）については、発症の有無を各所属の責任において必ず確認する。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。もし、選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができない場合もある。
8．その他詳細は全国大会に準ずる。

参加制限

１.男子団体試合
①１校１チームとし、監督１名　選手１０名以内を登録する。最低３名から５名でもよい。なお、３名もしくは４名の場合は後ろ詰め（先鋒・次鋒、もしくは先鋒を空ける。）とする。
②個人試合終了３０分後までに６名エントリーする。それ以後の選手変更はできない。
③試合の成立は最低３名の出場選手が必要。
④外国人留学生のチーム人員は、1名以内とする。
２.女子団体試合
①１校チームとし、監督１名　選手７名以内を登録する。最低２名でもよい。
②個人試合終了３０分後までに選手３名、補欠２名をエントリーする。それ以後の選手変更はできない。
③試合当日、両チームとも2名での対戦となった場合は、配列をそのままの順序で後ろに詰める（先鋒をあける）。なお、2名同士の対戦後、勝ち上がった場合、次の試合の配列はエントリー通りの配列とする。
④体重区分は、先鋒：52kg以下、中堅：63kg以下、大将：無差別。（体重の軽い者は重い階級に出場できる）なお、補欠は該当する階級に出場できる。
⑤量にパスしない者は出場できない。（無差別も計量を行う）
⑥外国人留学生のチーム人員は、1名以内とする。
３．男子団体試合３人制
①１チームの登録人数は２～５名とし、同地区内の合同チームを認める。なお、２名の場合は後ろ詰めとする。
②１チーム監督１名。合同チームは代表監督１名とするが、試合には他の監督も入れることとする。
③男子団体試合出場のチームからも合同チームに登録できるが、兼ねての登録は認めない。男子団体試合出場校からも単独チームで出場できる。
４.男子個人試合
①体重区分は４階級[60kg級,66kg級､73kg級,81kg級]および無差別とする。
②無差別の選手は、他の階級を兼ねることはできない。
③計量にパスしない者は出場できない。（無差別も計量を行う）
④各地区、各階級、６名の選手に推薦順位をつけて推薦する。
⑤６名に満たない地区が出た場合､他地区より抽選により補充する。
５.女子個人試合
①体重区分は４階級[48kg級､52kg級,57kg級,63kg級]および無差別とする。
②無差別の選手は、他の階級を兼ねることはできない。
③計量にパスしない者は出場できない。（無差別も計量を行う）
④女子は、以下の階級に登録できる。
(1)団体・先鋒（52kg以下に登録した場合）

個人は、48kg級・52kg級・無差別のいずれかに登録できる。
(2)団体・中堅（63kg以下に登録した場合）
個人は、全ての階級ならびに無差別のいずれかに登録できる。
⑤地区による参加制限を設けずオープン参加とするが、各地区選考会への登録を必要とする。

計　　量　男女個人試合計量：１月１０日（土）９：３０～１０：３０の間、大会会場で実施する。
※女子個人の計量は、女子団体の計量を兼ねる。
女子団体試合計量：１月１１日（日）８：００～８：３０の間、大会会場で実施する。
※前日計量を行っていない選手のみ計量を行う。
服装は高体連規定に準じる。計量を行わない者は出場できない。

参加申込　各地区予選会において、所定用紙に必要事項を記入の上、参加料（男子団体：５，０００円、女子団体：３，０００円、男子団体３人制：３，０００円、個人：２，５００円）を添え各地区高体連柔道専門委員長に申し込むこと。

組み合わせ　１２月１６日（火）に、県専門委員会において行う。
男女団体試合については、ともに新人大会の結果をもとに県専門委員会で決定する。
女子個人試合については、①新人大会の成績により上位２名の選手をシード位置に配置②令和７年度全国高校総体出場選手③残りの選手は、抽選で配置する。
登録変更団体試合について男女とも２名までの登録変更を認める。１月１０日（土）午後２時３０分までに大会本部で受け付ける。ただし、所定の用紙に必要事項を記入の上、学校長の許可（校長印）が必要。＊選手変更の際は、診断書等の提出を必要とする。

そ の 他　１．男子団体試合・女子団体試合の優勝チームおよび個人試合優勝者は長野県の代表として全国大会に参加できる。男子団体試合３人制は長野県内大会とする。
優勝チームが全国大会の参加資格に合わない場合は、次順位校とし、その選出・決定については、県専門委員会で協議する。
２．競技中の傷害・疾病などの応急処置は主催者が行うが、その後の責任は負わない。